Ⅶ　参考資料

1　平成15年度白山登山者カウンター調査

白峰自然保護官事務所では白山国立公園の利用動態を把握するため、平成15年５月から白山の登山道７カ所に順次登山者カウンター（以下、カウンターと略す）を設置し、入山者数を計測し、結果を集計した。

入山者数

平成15年の白山入山者数は、52,273人であった。

入山した登山口

入山者の83.0%が別当出合（砂防新道、観光新道）から入山していた。大白川（平瀬道）からは8.4%であった。

混雑日

主要登山道における１日の最大入山者数は、８月２日（土）の1,542人であった。以下８月23日（土）1,495人、８月16日（土）1,483人、８月３日（日）1,424人、７月27日（日）1,268人であった。

日帰り者の割合

白山室堂および南竜山荘の宿泊者数と主要登山道の入山者数から、１日毎に日帰り者の割合を算出した。登山シーズン毎の平均値は、春山（５月～６月まで）では86.7%、夏山（７月から８月まで）24.5%、秋山（９月から10月15日まで）62.8%であった。

登山シーズン（５月～10月15日まで）中の主要登山道からの全入山者に占める日帰り者の割合は31.0%であった。

表　白山入山者内訳

白山入山者数　(①+②)						52,273人		
(内　訳) ①主要登山道からの入山者								
月 登山道（登山口）	5月	6月	7月	8月	9月	10月	合計 (人)	設置期間
砂防新道（別当出合）	1,121	1,276	9,589	16,445	6,010	3,121	37,562	5/2～10/31
観光新道（別当出合）	57	211	1,631	1,522	846	1,558	5,825	5/2～10/31 うち欠測 5/6～5/18
平瀬道（大白川）	——	42	1,145	1,831	864	491	4,373	6/22～10/31
						合　計	47,760	

②その他登山道からの入山者					
登山道（登山口）	入山者	設置期間	登山道（登山口）	入山者	設置期間
市ノ瀬別山道 (市ノ瀬)	1,887人	5/2～10/31 うち欠測 8/9～8/26	中宮道 (中宮温泉)	196人	5/10～10/31 うち欠測 6/24～7/1
釈迦新道 (市ノ瀬)	838人	5/13～10/31 うち欠測 6/17～6/20	三ノ峰登山道 (上小池)	1,592人	6/20～10/20

登山者カウンターの概要

図. 1　各部の名称

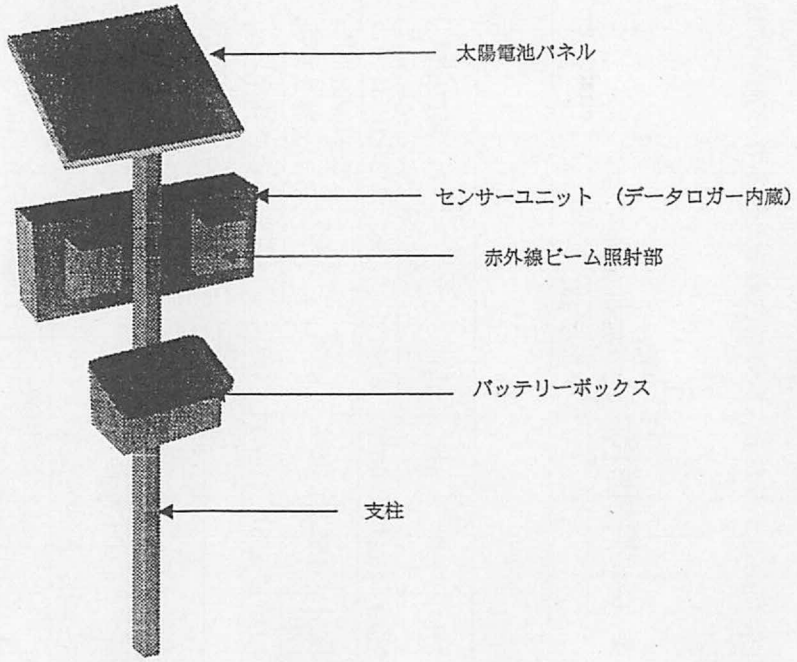
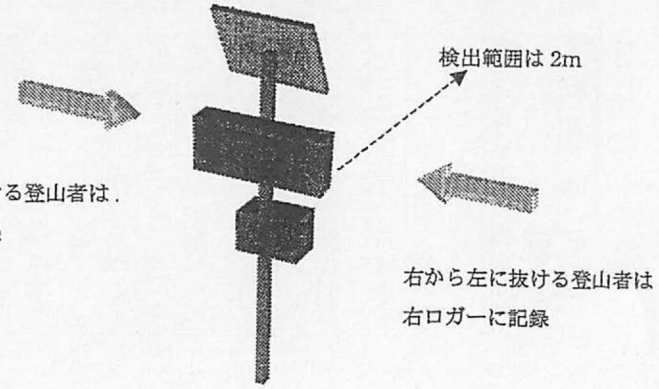


図. 2　動作の概要

登山者がカウンターの前を通過すると、通過時刻と通過方向を内臓のデータロガーに記憶する。センサーの検出範囲は2mである。



登山者カウンター設置箇所

	登山道名（登山口）
①	砂防新道（別当出合）
②	観光新道（別当出合）
③	平瀬道（大白川）
④	市ノ瀬別山道（市ノ瀬）
⑤	釈迦新道（市ノ瀬）
⑥	中宮道（中宮温泉）
⑦	三ノ峰登山道（上小池）

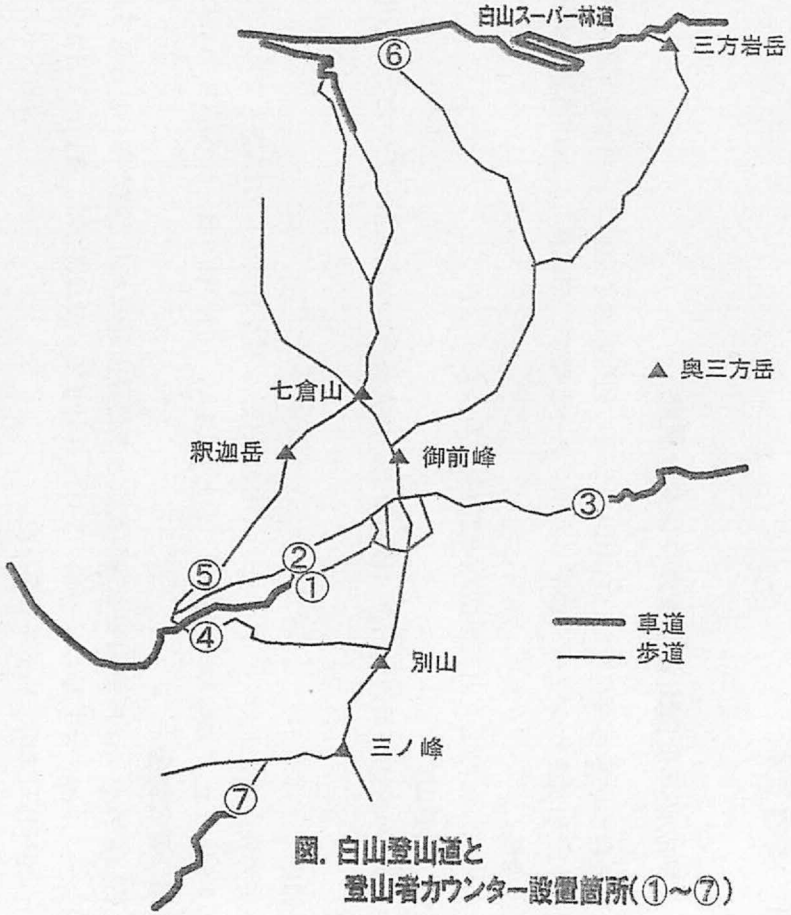


図. 白山登山道と
登山者カウンター設置箇所(①~⑦)

2　国立公園等における外来種問題参考事例

事務所名	国立公園	鳥獣保護	自環地	生息地等	地域区分	保護地域名	国内移動	外来種名	影響	発生	導入経路
西北海道	○				国立公園	支笏洞爺		コマクサ	樽前山、羊蹄山にコマクサが植栽され増殖。	おそれ	意図的（愛好家による植栽）
西北海道	○				国立公園	大雪山		ルピナス	園芸用に栽培されたものが逸乗・逸出し、非常に華やかな花であるため、本来の景観を破壊	現	意図的（園芸用に植栽）
西北海道	○				国立公園	各国立公園		牧草	高山植物の競合・駆逐	現	意図的（工事等に伴って利用）
西北海道	○				国立公園	利尻礼文サロベツ		アカツメグサ、シロツメグサ、セイヨウタンポポ他97種	固有種の多い高山植物が外来種との競合により駆逐されている。	おそれ	非意図的（物資・人に付着）
東北	○				国立公園	十和田八幡平		オオハンゴンソウ	十和田湖畔、奥入瀬、八甲田などで生態系の撹乱、自然景観への悪影響	現	非意図的（庭からの逸出。人・車への付着）
東北	○				国立公園	十和田八幡平	○	コマクサ	在来種との競合	おそれ	不明（人為的導入説があるが、自生説もあり）
東北	○				国立公園	十和田八幡平	○	オオバヤシャブシ	ミヤマハンノキ等との競合	現	意図的（土砂崩落地の緊急緑化で使用したものの中に生育しないはずの種が混入）
東北			○		自然環境保全地域	白神山地	○	オオバコ	登山道、山頂に繁茂し、高山植物に悪影響	現	非意図的（人への付着）
東北	○				国立公園	十和田八幡平		フランスギク、セイヨウタンポポ、コウリンタンポポ、ギシギシ、ブタナ	八幡平山頂の車道周辺でフランスギク等の繁茂が顕著。高山植物を駆逐するとともに風致景観に支障。	現	非意図的（人・車に付着）
北関東	○				国立公園	磐梯朝日		ブラックバス	裏磐梯の湖沼において捕食により在来生物が減少	現	意図的（釣り人による放流）
北関東	○				国立公園	日光	一部○	外来植物（オオバコ、ギシギシ等）野菜類（コンフリー）	尾瀬の木道周辺、空輸基地周辺で外来植物が繁茂。山小屋で耕作している畑の作物も外部に逸出し繁殖。	現	コンフリーは畑作物として意図的に導入。他は非意図的（人・物資に付着）
北関東	○				国立公園	日光		オオハンゴンソウ	オオハンゴンソウが繁茂し湿原植生を破壊するおそれがあるため駆除を実施。戦場ヶ原からは概ね排除したが、周辺の道路沿線やスキー場などで広がる。これらの施設敷地で繁茂することによる生態系影響は不明。	おそれ	意図的（花が珍しかったために大正中期に赤沼茶屋に植栽された。それがその後逸出）
南関東	○				国立公園	富士箱根伊豆		ソウシチョウ、ガビチョウ	箱根において、ウグイスや森林性鳥類との競合のおそれ	おそれ	不明
中部	○				国立公園	上信越高原		ブランスギク、ヒメジョオン、ブタナ、ルピナス、セイヨウタンポポ	志賀高原のスキーゲレンデを中心に各地で繁殖。	現	不明
中部	○				国立公園	上信越高原		アライグマ	軽井沢において繁殖し、別荘等の財産に被害。生態系影響は不明	現	不明
中部	○				国立公園 国指定鳥獣保護区	中部山岳（北アルプス）	○	キツネ	ライチョウを捕食しているとの伝聞情報あり	現	不明（県がノウサギ駆除のため放獣した個体群が起源or低地からの自然侵入）
中部	○				国立公園 国指定鳥獣保護区	中部山岳	○	イワナ	上高地梓川において、昔のカワマス放流で交雑が進行。現在も種苗放流されているイワナの中にカワマスとの交雑種がいる。	現	意図的（種苗放流）
中部	○				国立公園 国指定鳥獣保護区	中部山岳		セイヨウタンポポ等	乗鞍スカイライン沿線においてセイヨウタンポポ等が生え、高山植物へ悪影響のおそれ	おそれ	非意図的（人・車に付着）
中部	○				国立公園 国指定鳥獣保護区	中部山岳		外来草本（ツルスズメノカタビラ、シロツメグサ、ヒメジョオン、フランスギク等）	高山植物への悪影響	現	非意図的（人・車に付着）
中部	○				国立公園 国指定鳥獣保護区	白山	○	コマクサ	在来種との競合	おそれ	意図的（愛好家が移植）
中部	○				国立公園 国指定鳥獣保護区	白山	一部○	低地性植物（オオバコ、スズメノカタビラ、セイヨウタンポポ、フキ、シロツメグサ）	在来種の駆逐、交雑	おそれ	非意図的（工事資材に付着、登山者に付着）
中部	○				国立公園 国指定鳥獣保護区	白山		フェレット	根倉谷での目撃情報あり。在来種の捕食のおそれ。	おそれ	不明
近畿	○				国立公園	吉野熊野		アライグマ	大台ヶ原、三津河落（さんずこうち）山においてアライグマの目撃情報あり。公園外では在来種の駆逐、農業被害の例があり、今後被害発生のおそれあり	おそれ	意図的（ペットの逸出、遺棄）
近畿	○				国立公園	吉野熊野		ソウシチョウ	大台ヶ原において、在来種との餌の競合のおそれ	おそれ	意図的（ペットの逸出）
山陰	○	○			国立公園 国指定鳥獣保護区	大山隠岐（大山）		カモガヤ、オニウシノケグサ、ハルガヤ、コヌカグサ、ナギナタガヤ	大山頂上において、在来種との競合、生体計器板の損壊、交雑などのおそれ	おそれ	非意図的（頂上の植生復元に用いたコモ等に紛れていた模様）
山陽四国		○			国指定鳥獣保護区	石鎚山系		セイタカアワダチソウ等帰化植物	区域の一部において、在来種との競合・駆逐等、在来種の生息域の生態系の崩壊	現	非意図的（物資に付着）
九州	○				国立公園	阿蘇くじゅう		セイタカアワダチソウ、アメリカセンダングサ、セイヨウタンポポ	くじゅう地域全体で生育するが、1200mの坊ガツルまで侵入し、景観への影響＋高山植物への影響	現	非意図的

＊この表は、環境省で現在収集中の事例（精査されていない）から、山岳地関係の一部を選別したものである。